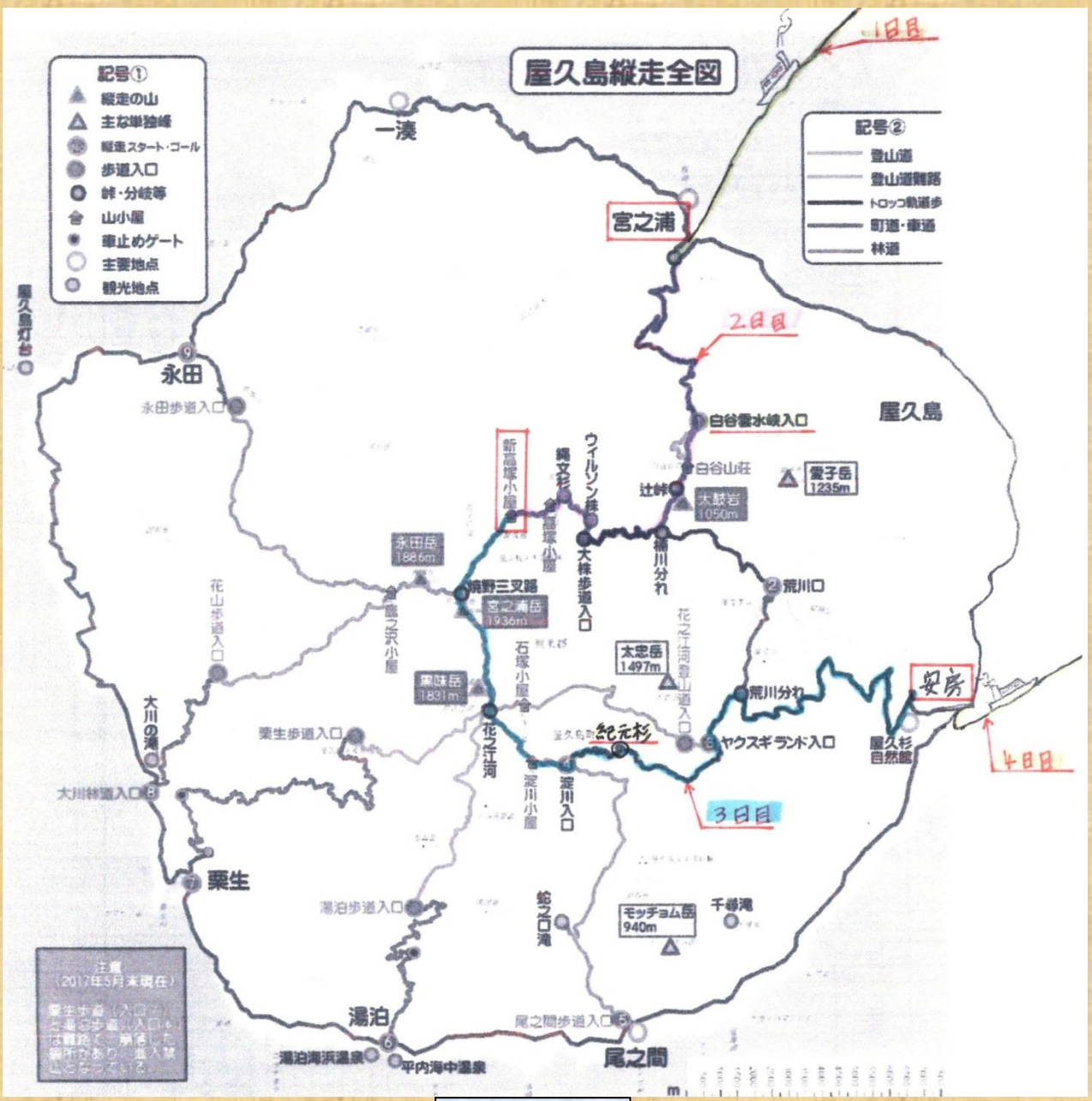
屋久島:宮之浦岳 登頂

古川 眞人

春に九州最高峰の屋久島:宮之浦岳に登りました。宮之浦岳は日本百名山最南の山。雨が多いことでも有名。雨中の登山は避けるべく1ヶ月以上前から天気予報を注視し、何度も見送り、晴れ・弱風の日を首長く待ちました。そしてついに決行の日が訪れ、急ぎ航空券と宿の手配をし、翌朝の1番電車で羽田に向かいました。

羽田を8時に発ち、鹿児島で高速船に乗り換えて宮之浦港に着いたのが16時。平日でしたが季節的なこともあり観光客で混雑していました。早々にスーパーへ向かい燃料・食料・飲料水などを調達する時のワクワク感、明日はいよいよ宮之浦岳と逸る気持ちを抑えての買い物でした。

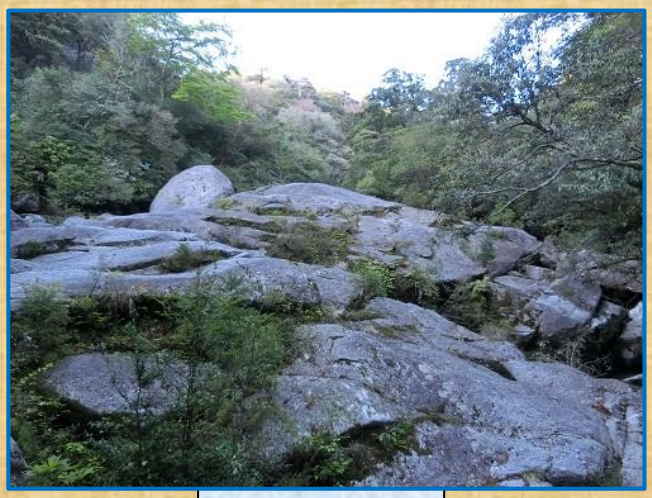


(1) 屋久島

翌朝6時に出発。白谷雲水峡登山口を起点に宮之浦岳を目指しました。ひんやりとした森の空気を胸いっぱい吸い込み、鳥の囀りを口ずさみながらの山旅でした。1時間半ほど進むと「もののけ姫」の舞台になったといわれている「苔むす森」に着きました。この場所はガイドブックに紹介されている「白谷雲水峡」ですが、私には「妖精の森」を思わせる不思議な空間でした。苔生した岩間を緩やかに流れる川音と木漏れ日に映し出される光景に見入っていると、どこともなく妖精が現れ無邪気に話しかけてくるかのようでした。幻想的な雰囲気に浸っているのも束の間、後方から人の声が…、我に返りこの不思議な森を後にしました。

(2) 白谷雲水峡登山口

険しい山道を2時間半ほど登ると名立たる屋久杉が次々と…、先ずウイルソン杉(切株)、それから1時間ほどで大王杉、そして夫婦杉が現れ、次はどんな…と期待していると疲れも忘れ時間が短く感じられました。30分ほどすると樹齢 4,000 年以上ともいわれている屋久杉最大の縄文杉が現れました。大地を掴むようにしっかり根を張り、幹は樹齢を感じさせる風格があり、仰け反るその大きさに圧倒され、しばらく見入っていました。急斜面のため近くに寄れませんが、この目で観ることができた感動の一時でした。なお、“屋久杉”とは樹齢 1,000 年以上の杉を指し、それ以下は“小杉”というそうです。


(3) 滑落注意

ちなみに、“ウィルソン杉”は秀吉の命により「国家安康」の鐘で知られる京都の方広寺を建てるために伐らせたとの説がありますが、現存していれば縄文杉とほぼ同格の国内最大級といわれています。“大王杉”は縄文杉が発見されるまでは最大の屋久杉とされたことから、大王の名が付けられたとか。その縄文杉が伐られなかったのは一本杉(真直ぐ)ではないので木材としての用途がなかったのではないか？、といわれています。

(4) 苔むす森

白谷雲水峡登山口を出発して8時間余の14時半頃、今日の宿泊小屋:新高塚小屋(標高1,500m)に到着しました。早速水場で喉を潤し、汗を拭いて日向に腰を下ろし横になっていると次々と登山者が…、早々に寝床を確保し夕食にしました。明日はいよいよ宮之浦岳、夜明け前の出発に備え早めに就寝しました。ところが、団体の登山者(韓国・日本)が次々到着し周囲がざわつくのが気になり、眠ったのは翌日に…。なお、山小屋に入れず屋外で寝ている人もいました。

（5）縄文杉(1)

（6）縄文杉(2)

4時起床、宮之浦岳まで約 3.5km 余。暗闇の中ヘッドライトの明かりを頼りに黙々と進み、この方向でいいのか？、と何度も確認しながらの前進でした。山小屋出発して30分ほど経つと遠くの山がほのかに赤くなってきました。夜明けです。これまでの不安が勇気に代わり、足元が明るくなるとともに足取りも軽くなり、一気に加速。食料が減って軽くなったこともあり、険しい足場も岩場も何のその…。山小屋出発して3時間弱、宮之浦岳（標高 1,936m）登頂。頂上からは 360°の大パノラマ。山頂は独り占め。ドッカと腰を下ろし、起点の白谷雲水峡の方向を眺めてはここまでの道程を思い出し、またこれから向う淀川登山口の方向を眺めては再度奮い立たせる一時でした。

（7）夜明け

(8)宮之浦岳登頂

登頂の達成感を満喫し、これより下山。途中粟生岳（1,867）、翁岳（1,860）、安房岳（1,847）、投石岳（1,830）などのアップダウンのため想像を超えたハードな下山でした。中継点の淀川小屋に着いたのが12時頃、水場があるここで昼食。休憩後、残りは僅か…とリュックを背負ったその時、その重さに気の緩みを感じた一瞬でした。

淀川登山口を経てバス停まで1時間弱、そこで新たな発見が。10分ほどのところに“紀元杉”たるものがあるとの表示、興味津々行ってみるとこれまた樹齢 3,000 年の立派な屋久杉。手を伸ばすと届く至近距離で観察、思いがけない出会いに3度目の感動、宮之浦岳縦走の褒美と思い写真を撮ったり触ったりしました。

（9）紀元杉(1)

（10）紀元杉(2)

バスに揺られ宿に着くや否や湯船にザッブーンと…、耐えてくれた足を摩りながら縦走達成の喜びに浸り、ついつい長風呂になりました。湯上り後、女将が教えてくれた居酒屋へ。まずは流した汗の補給と…、その一杯のビールの旨いこと。この世の楽園に思えました。この居酒屋には宮之浦岳に登頂した人、観光で来た人などで賑わい、いつしか初対面とは思えない雰囲気になっていました。話が弾み宿に着いたのは何時やら…、爆睡。

翌朝宮之浦港を7時に発ち、鹿児島で飛行機に乗り換えて羽田に着いたのが14時半頃。自宅まではこれより2時間余、一日がかりの移動でした。

今回の宮之浦岳登頂は以前より計画していましたが、天候に恵まれ、山小屋に泊まれ、無事の下山が何よりでした。次はこれまた日本百名山最北の利尻島：利尻岳（1,721m）を計画していますが、体力が…。ガタのきた身体の修復のため医師との相談が欠かせない今日この頃です。